



就労世代の歯科健康診査推進事業に関する実証事業 モデル事業の成果報告（職域）

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ

2024年3月11日

本日の内容

- 1. 本事業の概要**
 - (1) 背景・目的**
 - (2) 実施事項**
- 2. 本事業の実施結果**
 - (1) 結果の概要**
 - (2) 効果検証**
 - (3) モデル事業の評価**
- 3. 本事業の成果と課題、今後の検討事項**

1. 本事業の概要

(1) 背景・目的

背景課題

- **受診機会の拡大の必要性**
 - ✓ 法定健診等がない**就労世代に対する歯科健診の取組み**が重要
 - ✓ 多忙な就労世代が受診しやすいよう、**簡易検査の活用を含めた歯科健診のスキームの構築**の検討が必要
- **歯科健診受診後の歯科医療機関受診への動機付けの必要性**
 - ✓ 受診率向上に向けて歯科口腔保健に関する**行動変容等に関する効果的な歯科保健指導の検討**が必要

3つの実証パターンと目的

1

歯科健診・歯科保健指導の実施

歯科健診等を新たに実施するなど、就労世代における歯科健診の実施率向上を目指す

2

簡易な歯科検査の実施

簡易な歯科検査等を活用した、歯科口腔保健への関心づくりについて実施方法等を把握し、実施可能性を検証する

3

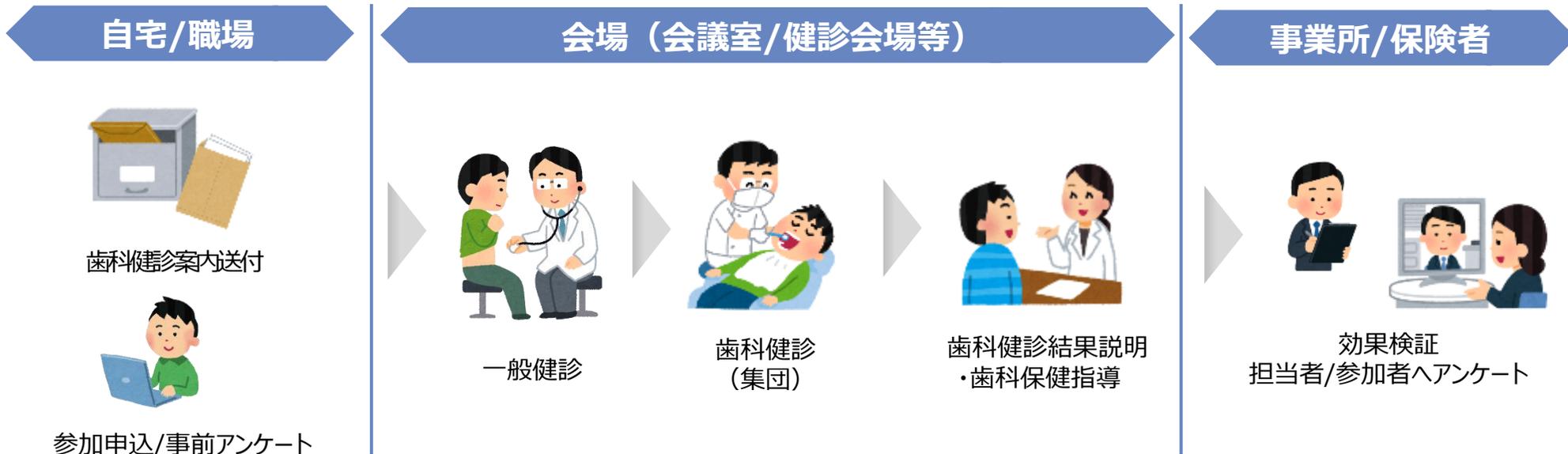
ターゲットを絞った受診勧奨の実施

レセプト等のデータを活用して、より効果的・効率的な受診勧奨の方法を検証し、今後の受診勧奨等の効率的な実施方法を検証する

1. 本事業の概要

(2) 実施事項 ① 歯科健診・歯科保健指導

1. 歯科健診案内を送付（一般健診と同時実施の場合は健診案内に同封）
2. 事前に参加申込、事前アンケートを実施
3. 参加者は歯科健診を実施（一般健診と同時実施の場合は健診会場で実施）
4. 歯科健診結果についての説明と歯科保健指導を実施
5. 実施後のアンケートから、今後の課題や、他の事業所等へのノウハウの展開を整理



1. 本事業の概要

(2) 実施事項 ②簡易な歯科検査 (+ 歯科保健指導)

1. 簡易検査の案内を送付 (一般健診と同時実施の場合は健診案内に同封)
2. 事前に参加申込、事前アンケートを実施
3. 参加者は簡易検査 (検査キット/アプリ) を実施 (一般健診と同時実施の場合は健診会場で実施)
4. (実施を選択したフィールドは) 歯科保健指導を実施
5. 実施後のアンケートから、今後の課題や、他の事業所等へのノウハウの展開を整理



※歯科保健指導は選択した場合のみ実施

1. 本事業の概要

(参考) 簡易な歯科検査 運用実施例

簡易な歯科検査 (+ 歯科保健指導) の健診当日の流れ



事前に採取した検体を提出



待ち時間を活用して啓発!



個別ブースで歯科保健指導



参考：人員体制

実施内容	対応スタッフ	歯科衛生士 (指導要員)
簡易検査のみ (結果後日)	検体受付：1名	—
簡易検査のみ (結果当日)	検体受付：1名、検査：2名	—
簡易検査 + 歯科保健指導	検体受付：1名、検査：2名	2名 (1人5分の指導の場合)

1. 本事業の概要

(2) 実施事項 ③ターゲットを絞った受診勧奨（受診勧奨）

【受診勧奨】

1. 保険者等にて、重点的に歯科健診（簡易スクリーニングを含む）、歯科受診を勧奨したい者をレセプトデータ等から抽出
2. 対象者へ受診案内（はがき・封書・SNS等）を送付（通知）
3. 歯科健診（簡易スクリーニングを含む）を実施
4. 実施後、保険者（企業）担当者へアンケートを実施

保険者

歯科健診・受診

保険者

レセプトデータ等

- 例)
- ✓ 糖尿病患者で過去1年間の歯科未受診者
 - ✓ 特定健診受診者で過去1年間の歯科未受診者
 - ✓ 若年層（無関心層）等
- ※参加フィールドと協議し抽出条件を決定

対象者へ通知

歯科健診／歯科受診



簡易スクリーニング



後日結果を受領

歯科受診状況分析
レセプトや健診票等の
（歯科健診結果から確認）



効果検証
担当者へアンケート

2.本事業の実施結果

(1) 結果の概要 実証パターン別結果

モデル事業実施結果

実施パターン	保険者	事業所	フィールド数 ^{※1}	参加者数 ^{※2}
パターンⅠ (歯科健診・歯科保健指導)	3	41	47	1,261
パターンⅡ (簡易な歯科検査)	12	54	151	9,761
パターンⅢ (ターゲットを絞った受診勧奨)	6	5	11	13,499
合計	21	100	209	24,521

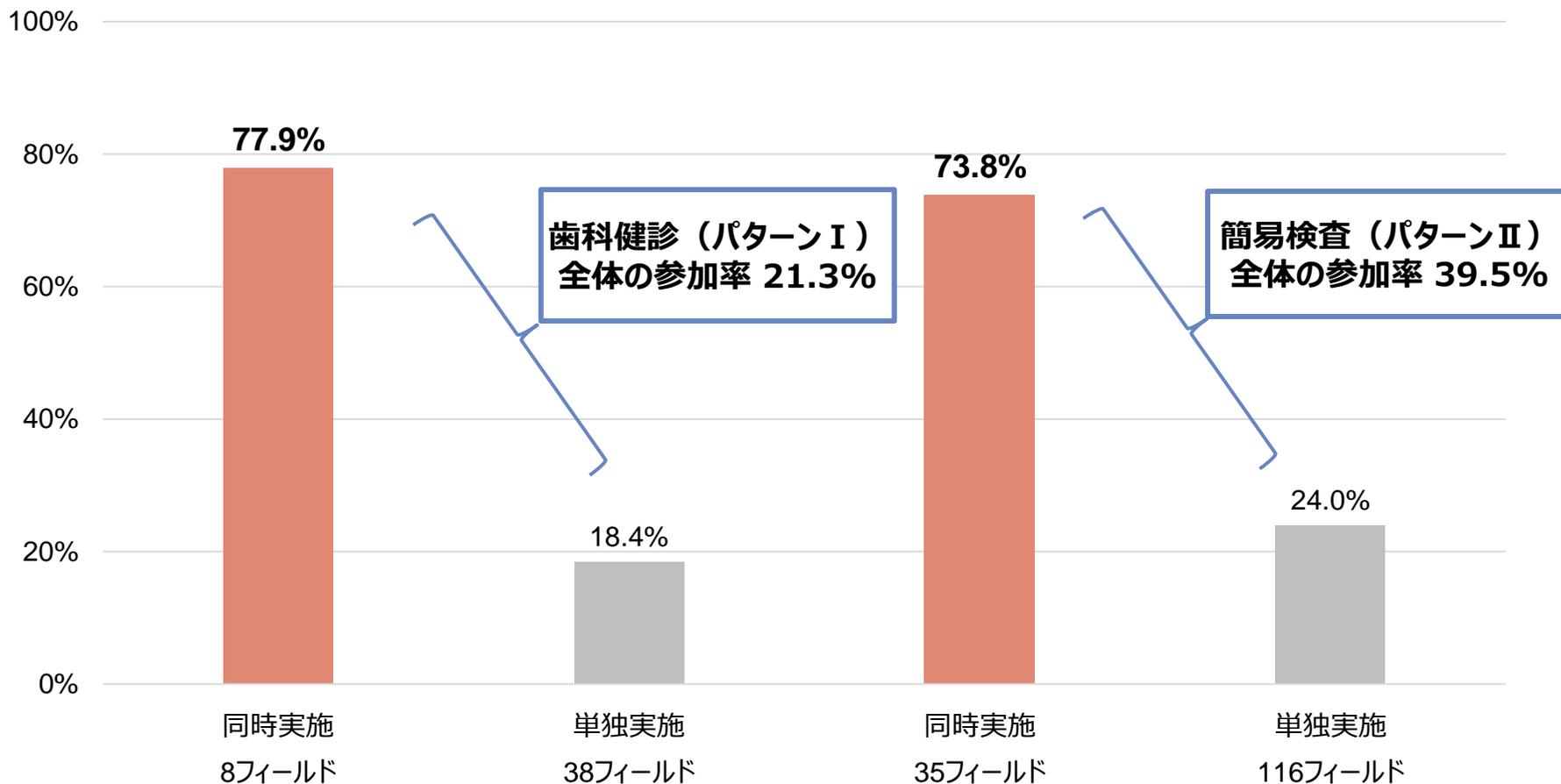
※1 保険者が加入している複数の事業所に参加勧奨を行うケースがあるため、保険者・事業所数とフィールド数は一致しません。
(例えば、総合健保の事業所が該当します。)

※2 モデル事業の案内を行った対象者数のうち、モデル事業に参加・申込みをした人数を指します。

2.本事業の実施結果

(1) 結果の概要 実施機会別の参加率の内訳

実施機会（健診等との同時実施、単独実施）別の参加率



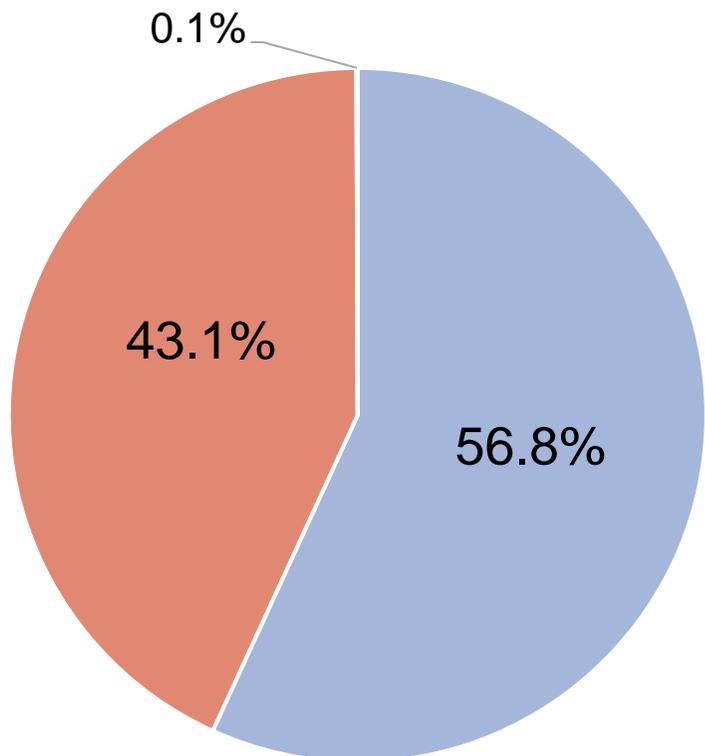
歯科健診・歯科保健指導

簡易な歯科検査

2.本事業の実施結果

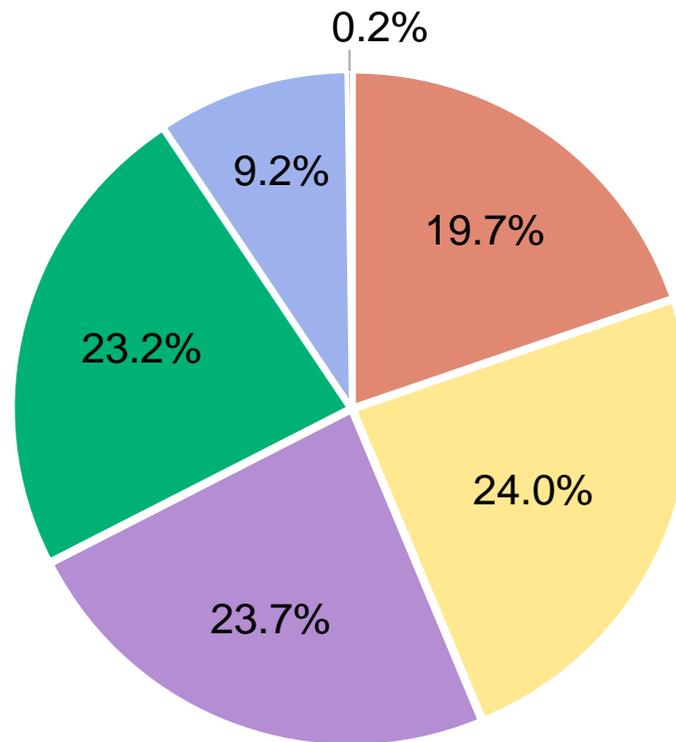
(1) 結果の概要 参加者属性 (性別・年代)

性別 (n=13,041)



■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答

年代 (n=13,041)

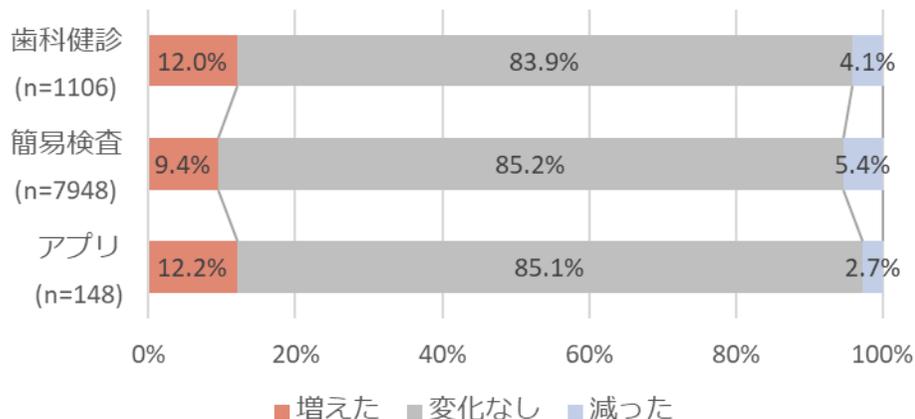


■ 20代以下 ■ 30代 ■ 40代
■ 50代 ■ 60代以上 ■ 無回答

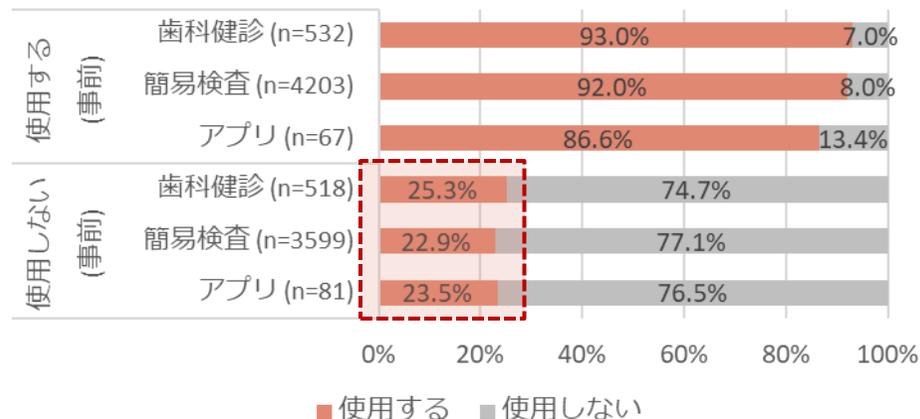
2.本事業の実施結果

(2) 効果検証 意識変容効果 (セルフケア行動)

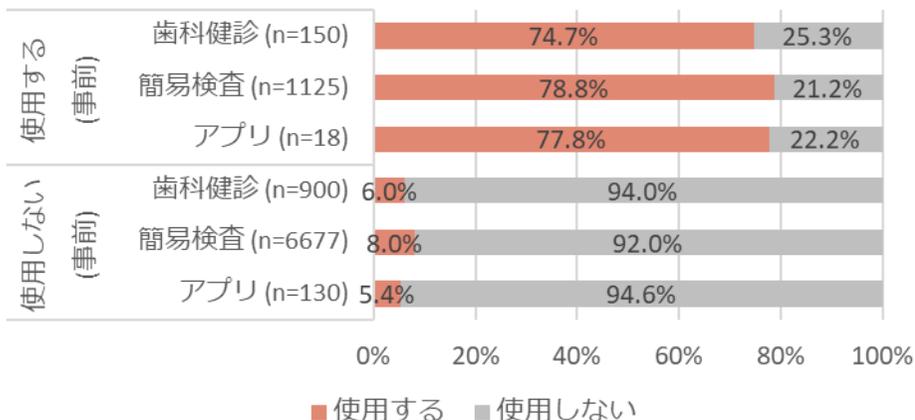
検査前後での歯磨き回数の変化



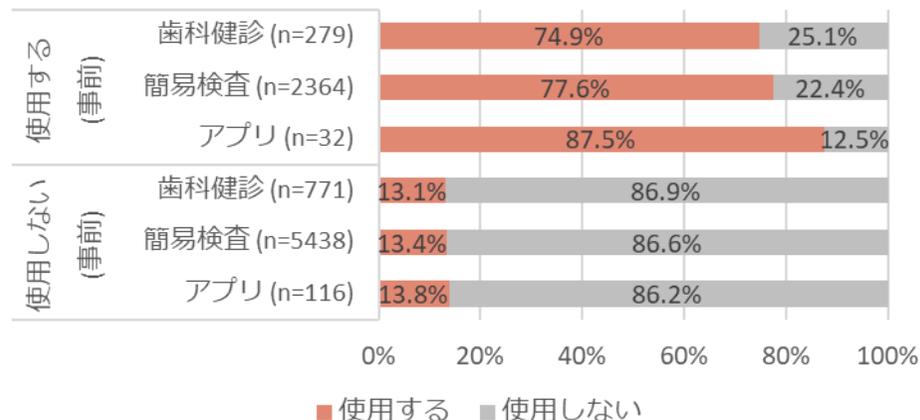
検査前後でのフロス使用の変化



検査前後での舌ブラシ・舌クリーナー 使用の変化



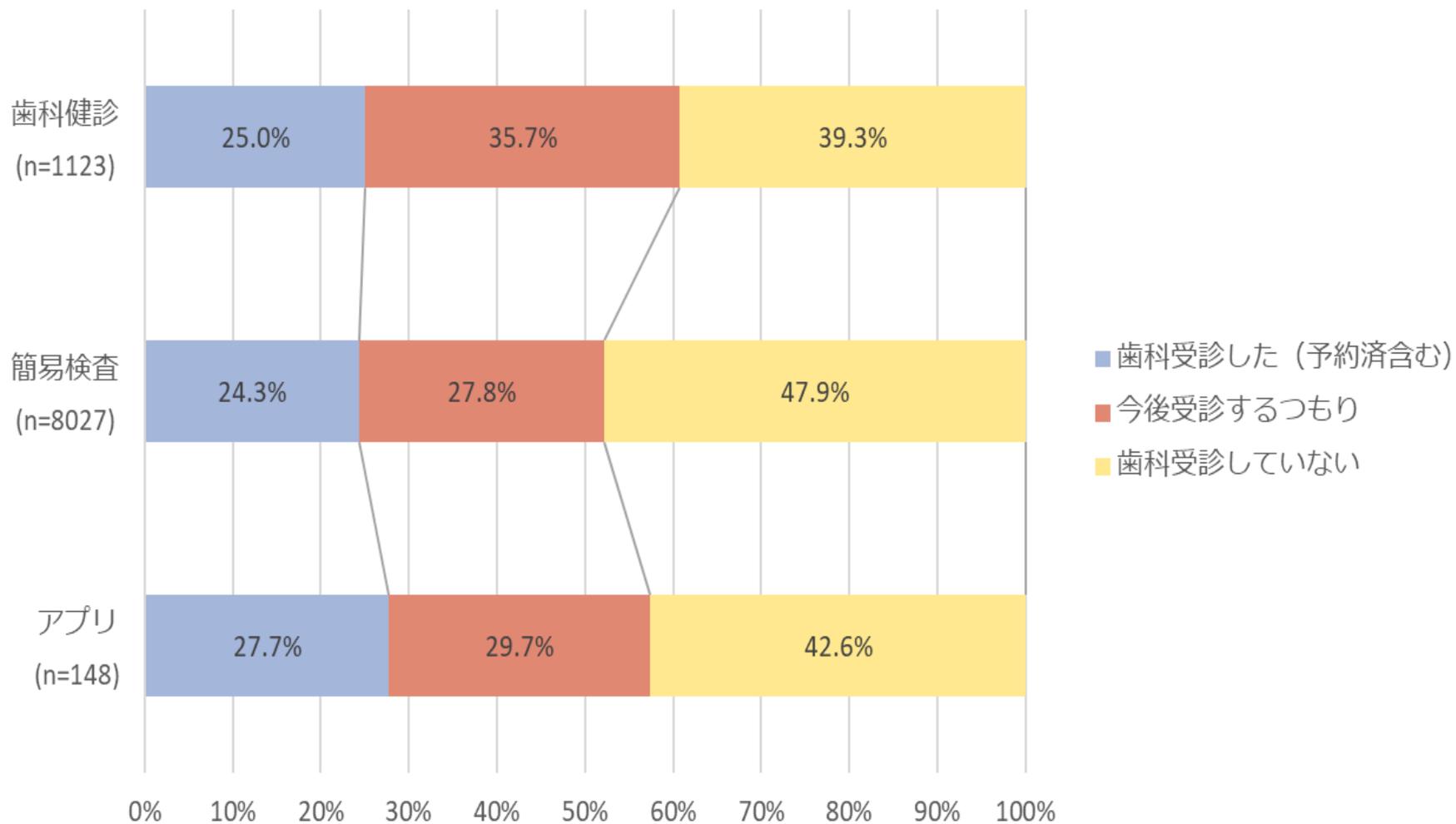
検査前後での洗口剤使用の変化



2.本事業の実施結果

(2) 効果検証 意識変容効果 (歯科受診行動)

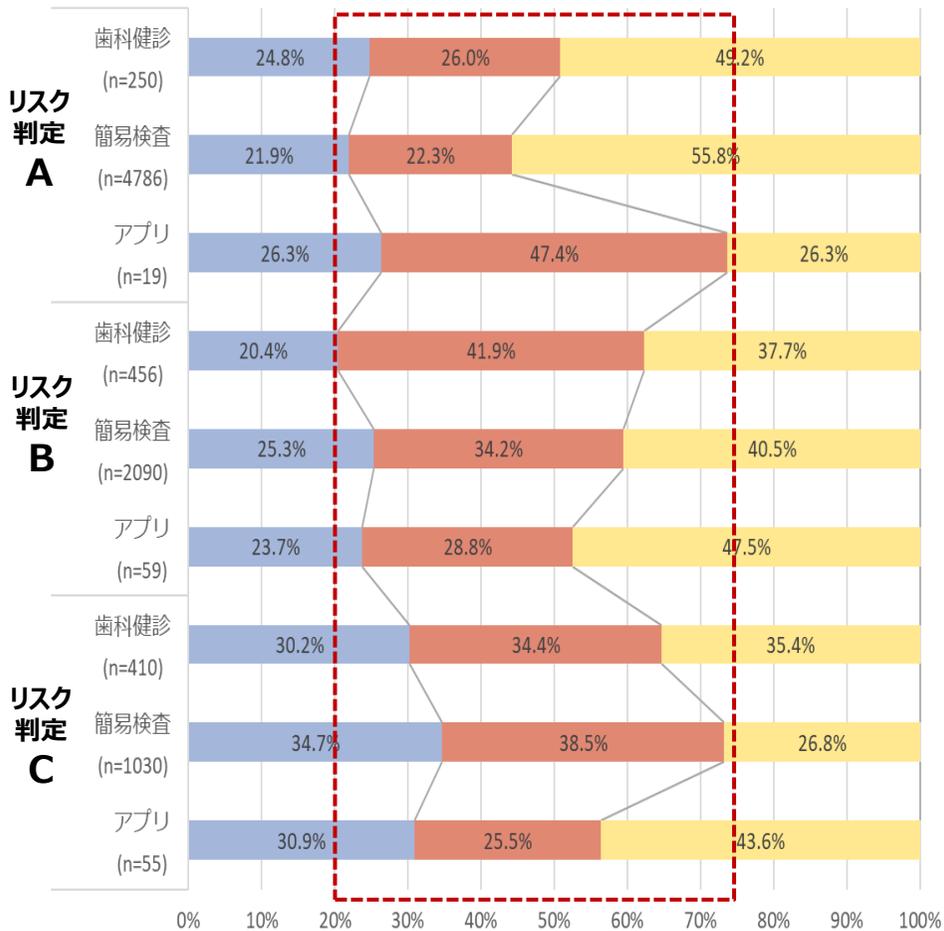
検査の種類別 歯科受診行動 (職域)



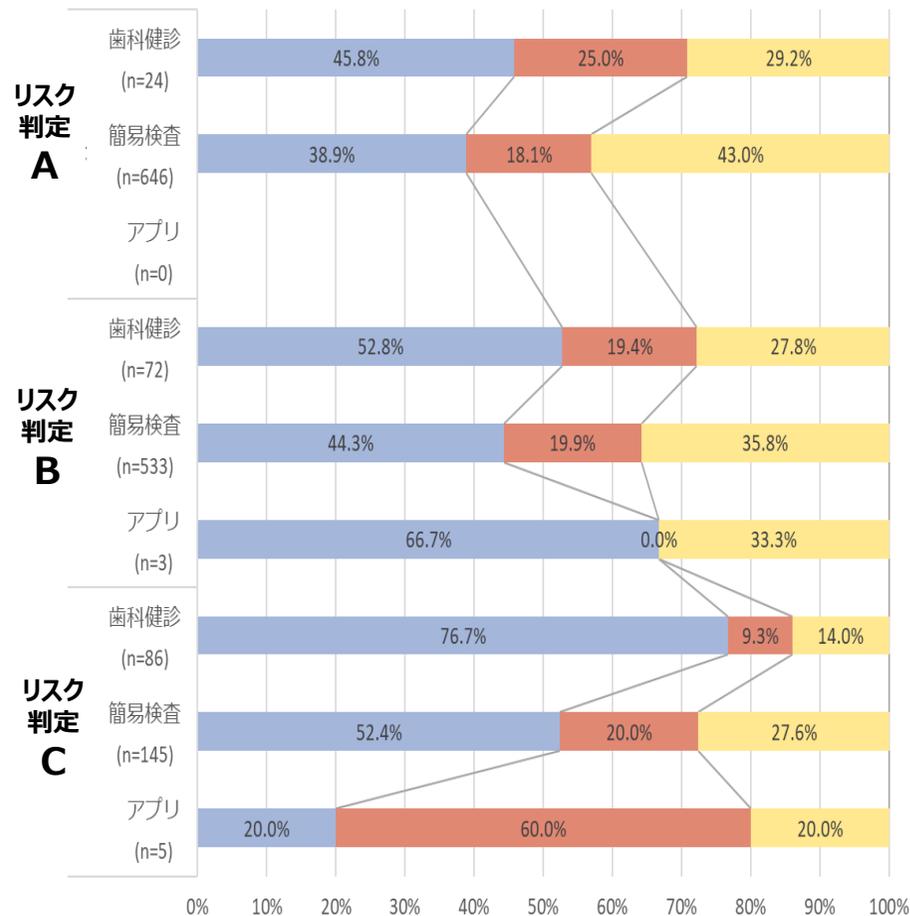
2.本事業の実施結果

(2) 効果検証 意識変容効果 (歯科受診行動)

職域における実施結果



自治体における実施結果

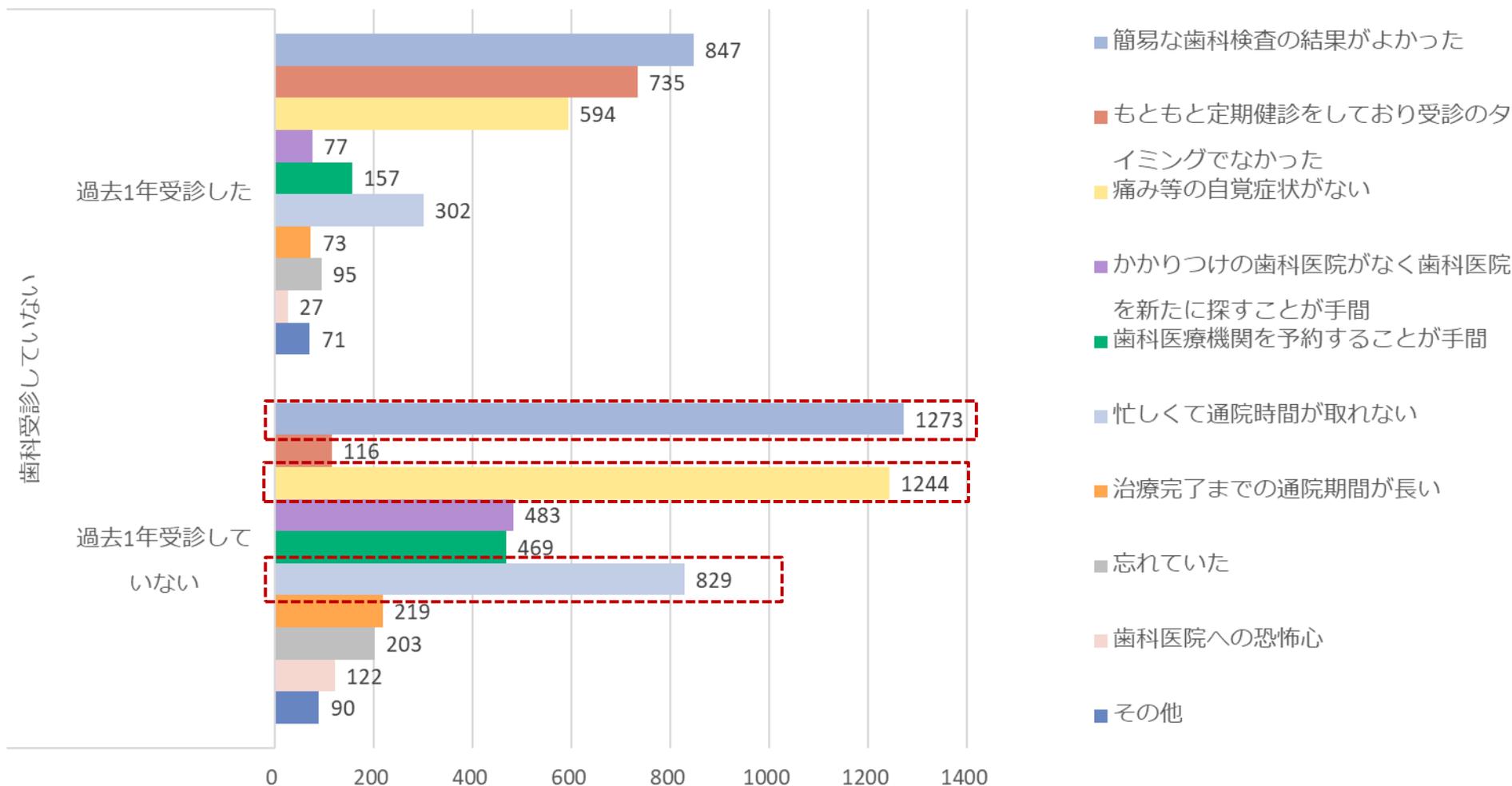


■ 歯科受診した (予約済含む)
 ■ 今後受診するつもり
 ■ 歯科受診していない

2. 本事業の実施結果

(2) 効果検証 意識変容効果 (歯科未受診理由)

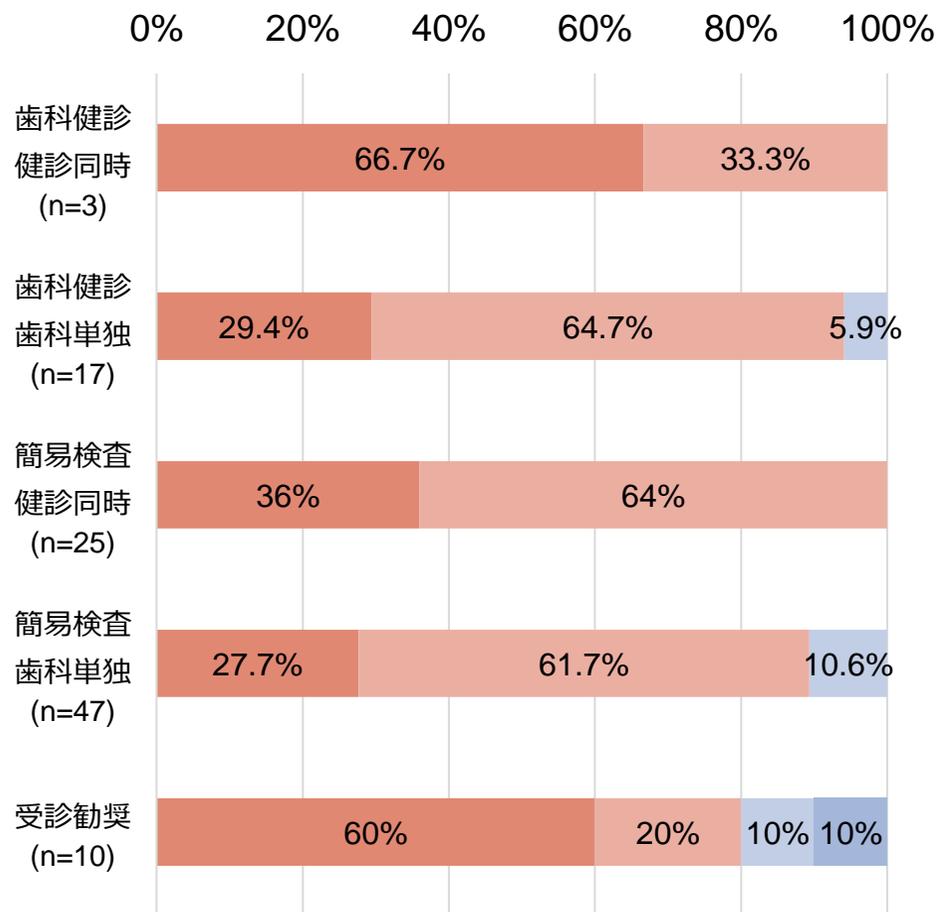
歯科受診しなかった理由 (職域)



2. 本事業の実施結果

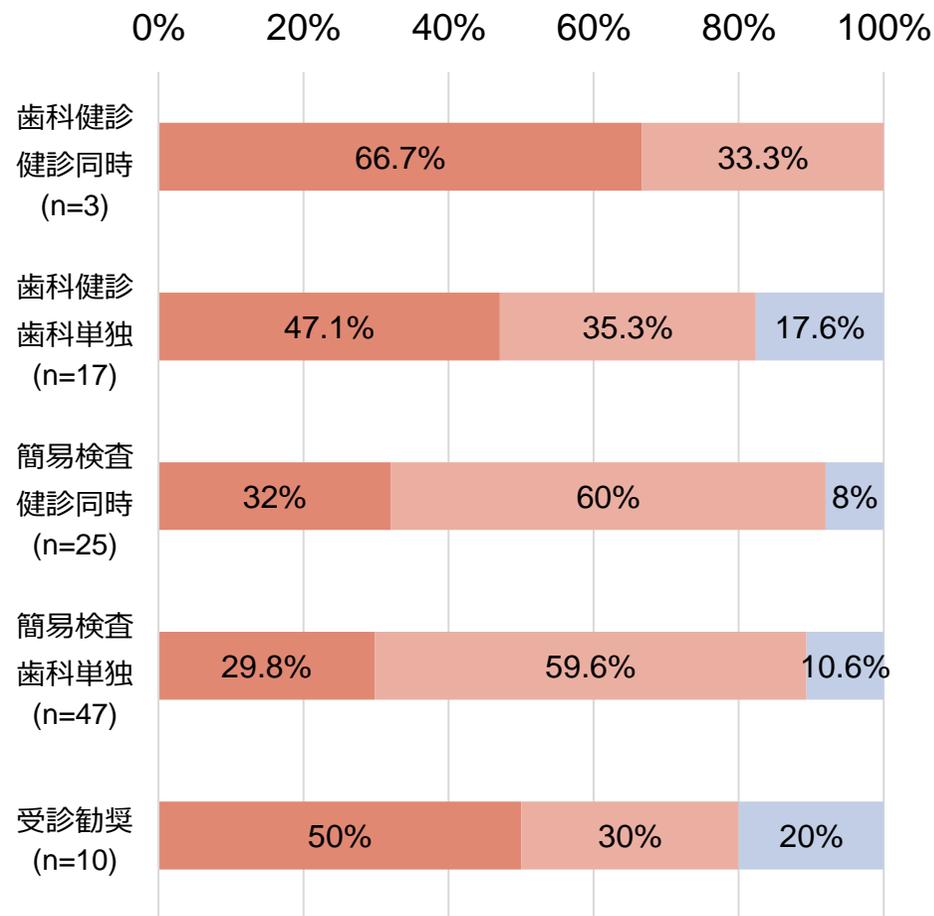
(3) モデル事業評価 参加のしやすさ・実施のしやすさ

従業員が参加しやすかったか



■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

企業が実施しやすかったか

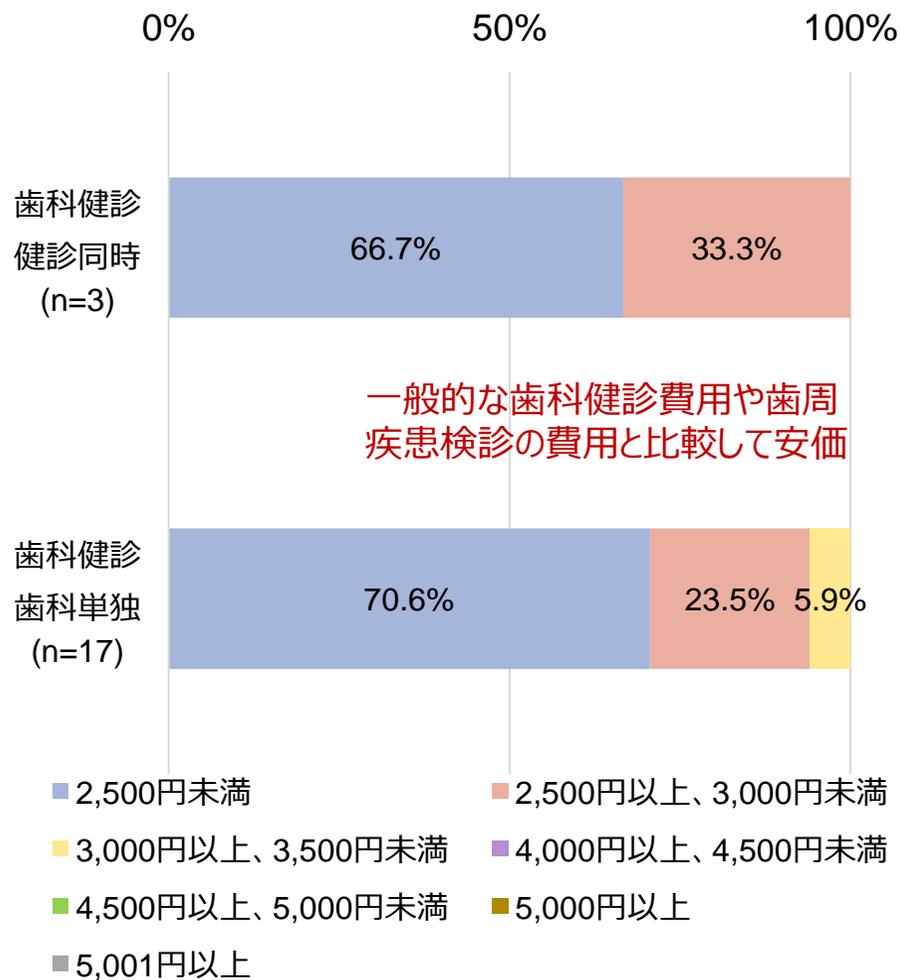


■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

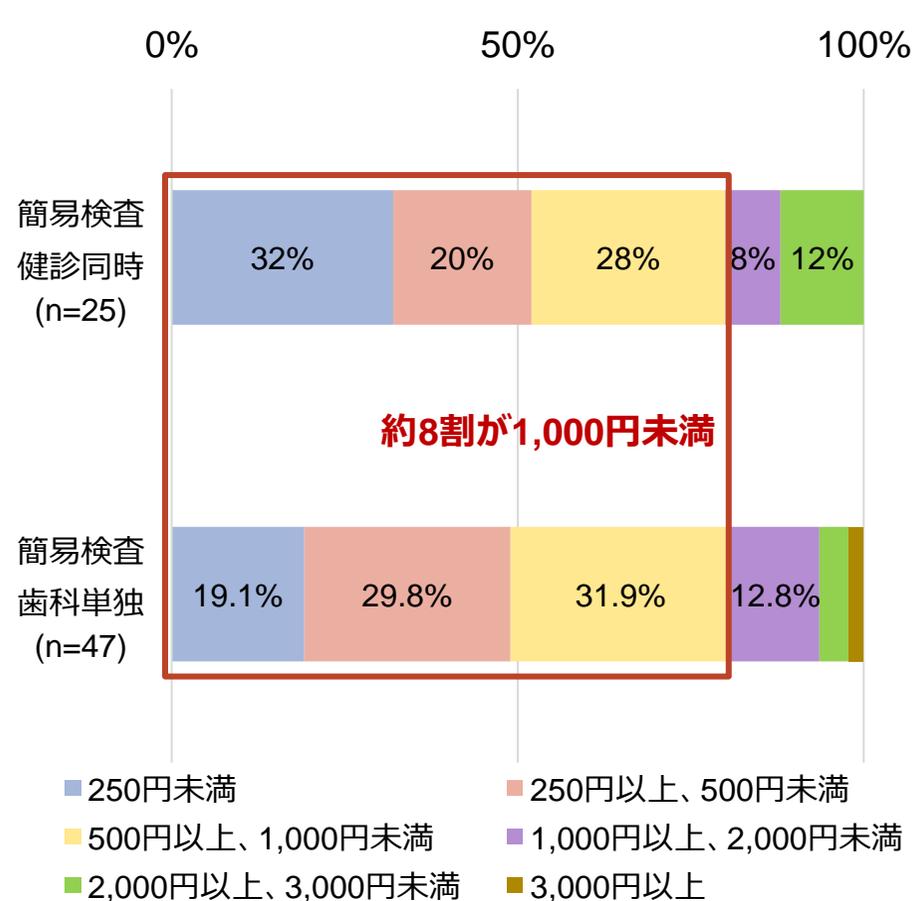
2. 本事業の実施結果

(3) モデル事業評価 継続可能な一人当たり費用額

「歯科健診」を自社で実施する場合に
可能な費用負担額（一人当たり費用）



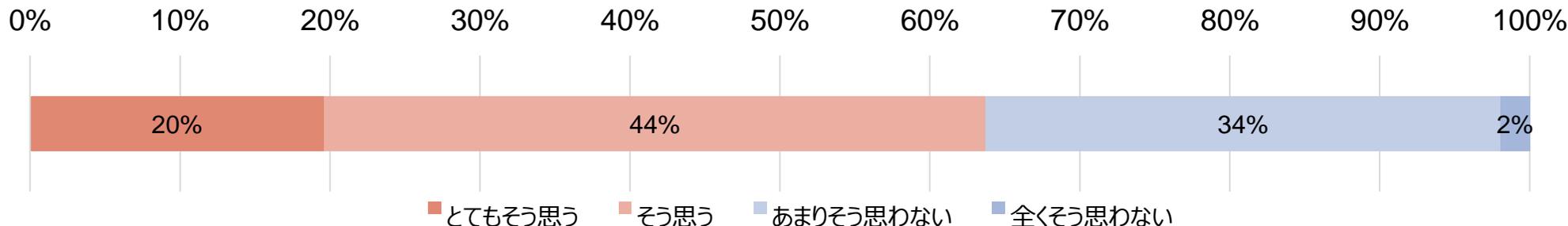
「簡易検査」を自社で実施する場合に
可能な費用負担額（一人当たり費用）



2.本事業の実施結果

(3) モデル事業評価 実施者の継続意向

今回のモデル事業の方法で継続実施する可能性があるか (n=102)



	担当者に評価された点	今後の検討課題
歯科健診	<ul style="list-style-type: none">● 検査の内容が充実している● 歯科医師・歯科衛生士などの専門職からの指導が受けられる	<ul style="list-style-type: none">● 費用が高い● 人員（専門職）の確保が困難● 参加人数を集められない
簡易検査	<ul style="list-style-type: none">● 若年層含めて従業員が興味を持ちやすく、周知がしやすい● 遠隔地・全国に事業所を持つ企業で公平に機会提供可能● 比較的費用が安い	<ul style="list-style-type: none">● 個人郵送型は実施率低い

一般健診同時

- 健診受診のついでにデフォルトとして参加できる（効率的）
- 従業員がついでに参加しやすい（参加率が高い）

歯科健診単独

- 健診機関や各事業所（支店）と時期や運用の調整が少ない（運用者は実施しやすい）

3.本事業の成果と課題、今後の検討事項

成果と課題

成果

歯科健診／簡易な歯科検査、一般健診等との同時／単独のそれぞれの実施機会は、事業主や保険者が重視することや実情に応じて選択することで、それぞれが実施パターンとして有用である

- 歯科健診・簡易な歯科検査のいずれも、一般健診等の既存の事業の同時実施により効率的かつ高い参加率で実施ができた。
- 歯科健診では若年層や過去未受診者等の無関心層にも実施率が高いことがわかった。
- 簡易な歯科検査（キット・アプリ）でも歯科健診・歯科保健指導と同様に、受診やセルフケア行動に一定の効果が認められた。
- 簡易な歯科検査では多くの従業員・被保険者に対して公平に機会提供を行うことができた。
- 歯周病検査キットで実施する場合、検体回収方法は職場で集団提出する方が、自宅郵送式よりも実施率が向上した。

課題

- ✓ 実施後の受診行動は、受診への意識変化（「受診するつもり」）に留まる人が多いため、受診行動に結びつける対策が必要
- ✓ 費用負担可能額は、歯科健診・簡易検査のいずれも相場よりも低く、費用負担（実施費用の高さ、予算の確保）が課題
- ✓ 歯科健診・簡易な歯科検査を単独で実施する場合には参加率の向上が課題
- ✓ アプリによる簡易な検査の充実、参加率・実施率の向上が課題

今後の検討事項

- ✓ 企業や保険者が事業として実施するには費用負担が少ない実施方法（ターゲットを絞る／歯周疾患検診への参加、アプリを含むより安価な簡易な歯科検査等）の検討が必要。
- ✓ 集合型での同時実施や歯科健診は参加人数の確保が困難である事業所もあるため、より多くの事業主・保険者が歯科口腔保健に取り組むためには、少人数で実施率を挙げて実施ができる機会の更なる検討が必要。
- ✓ 実施後の行動変化には、事前のリテラシーの高さが影響を与えているため、歯科口腔保健に関する啓発が重要。

最後に

1

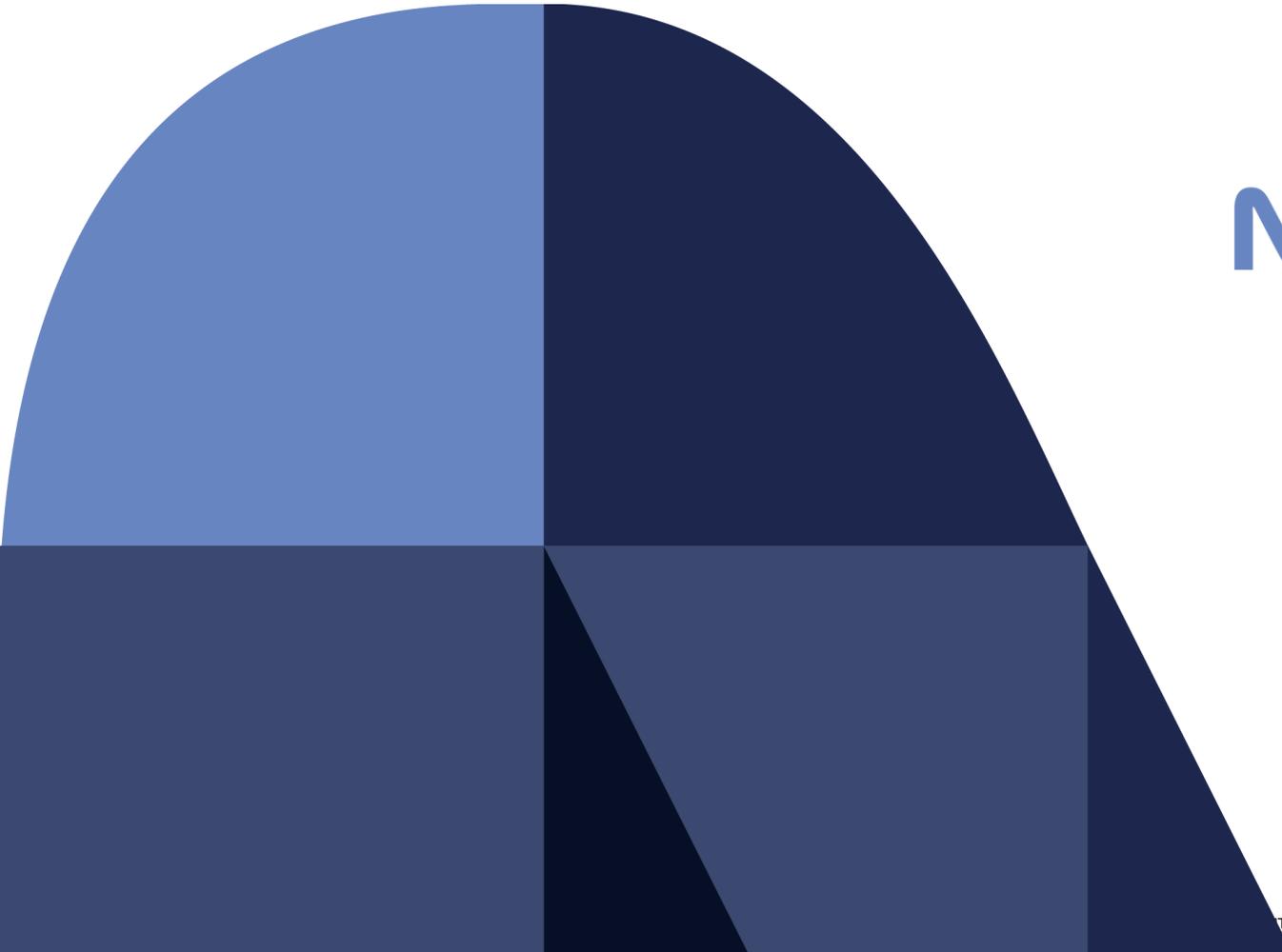
次年度も事業へのご参加をご検討ください

次年度以降も就労世代の歯科健康診査の推進に向けた取り組みを実施して参ります。引き続き、ご参加のご検討を頂けると幸いです。

2

セミナー後、アンケートのご回答にご協力をお願いします。

今回の参加申し込みをしていただいたメールアドレスにアンケートURLをお送りします。



NTT DATA

Trusted Global Innovator